

保健環境研究所だより

もくじ

- ・「夏休み体験教室－科学の目で見なおそう身の回り」の参加者を募集します P1
- ・京都市伏見区におけるアルゼンチンアリ防除の現状報告 P2～3
- ・レジオネラ症について P4



No. **108**
平成26年7月

いろんなことにチャレンジできる夏休み、身近なところから「環境や食品」について考えてみませんか！

京都市市連携事業 「夏休み体験教室－科学の目で見なおそう身の回り」
の参加者を募集します

○小学生コース

対象者 小学4年生～6年生

日時 8月1日（金）13:30～16:00

会場 京都府保健環境研究所（京都市伏見区村上町395）

内容・定員（申込多数の場合は抽選）

- ①色のマジック 水の性質を調べよう 15名
- ②手洗い大作戦 手の汚れを測ってみよう 15名

○中学生コース

対象者 中学生

日時 8月1日（金）13:30～16:30

会場 京都市衛生環境研究所（京都市中京区壬生東高田町1-20）

内容・定員（申込多数の場合は抽選）

- ①環境コース「水や空気の汚れについて」 20名
- ②食品コース「簡単にできる食品の検査について」 15名
- ③衛生昆虫コース「身近な昆虫（蚊）について」 10名

○**申込方法** はがき、またはEメールに住所、氏名、電話番号（日中に連絡のつく番号）、学校名、学年、年齢、希望のコースを記入し、送付してください。受付は7月22日（火）必着です。参加の可否は締切後にお知らせします。

○申込・問い合わせ先

京都府保健環境研究所 庶務課

〒612-8369 京都市伏見区村上町395

Eメール：hokanken@pref.kyoto.lg.jp

電話：075-621-4067

または

京都市衛生環境研究所 管理課

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-20

Eメール：eikouken@city.kyoto.jp

電話：075-312-4941

昨年の教室から



（色のふしぎ）



（紙のリサイクル）

京都市伏見区におけるアルゼンチンアリ防除の現状報告

京都市伏見区では2008年12月に特定外来生物のアルゼンチンアリ^{注1)}の定着が確認され、生息地では在来アリの駆逐や人家への侵入被害などが生じているため、2012年12月より薬剤散布による地域一斉の防除を開始しています。防除活動は、昨年の「たより106号」で紹介^{注2)}したように「京都市伏見区アルゼンチンアリ防除対策協議会」（以下「協議会」）が平成25年度環境省生物多様性保全推進支援事業の採択を受けて地域住民の皆様にもご協力いただいて実施しています。今回は防除開始後1年以上が経過した現状について報告します。

現在のアルゼンチンアリの生息状況

アリ類の調査は原則薬剤散布3週間後の毎月第4水曜日に実施しています。アルゼンチンアリとこの地域にごく普通に生息する在来アリ2種（トビイロシワアリ、アミメアリ）の分布を2012年12月から2014年3月までの調査結果をまとめて図1に示しました。アルゼンチンアリと在来アリ2種の出現地点はほぼ反転しており、アルゼンチンアリが侵入した

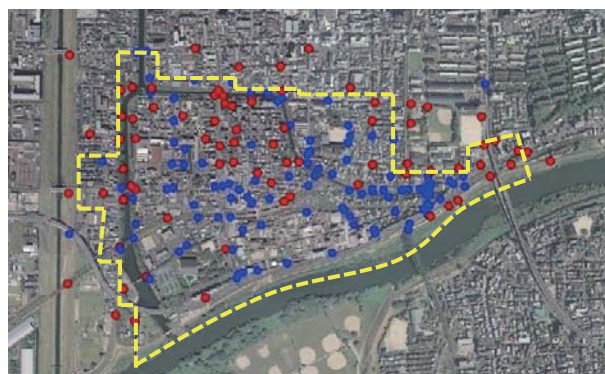
地域では在来アリが駆逐されつつあることがわかります。アルゼンチンアリの生息地域については、図1aの矢印で示した地点で2013年9月の台風18号の影響により拡大・定着が確認されたものの、薬剤散布前と比較して大きく広がることはなく、地域でのアルゼンチンアリの封じ込めはほぼ成功していると考えられます。図2では、薬剤散布以前の調査をもとに調査地域を非防除地域（薬剤散布を行っていない地域）とアルゼンチンアリ生息地域に分け、砂糖水含浸脱脂綿1枚当たりの捕獲アリ個体数の毎月の推移を示しました。アルゼンチンアリ生息地域では、アリ類の活動の季節変動の影響を除いてもアルゼンチンアリの個体数は大きく減少しており、在来アリが捕獲される地点も出現してきていることから、薬剤の効果は着実に出てきていると考えられます。

今後の方針

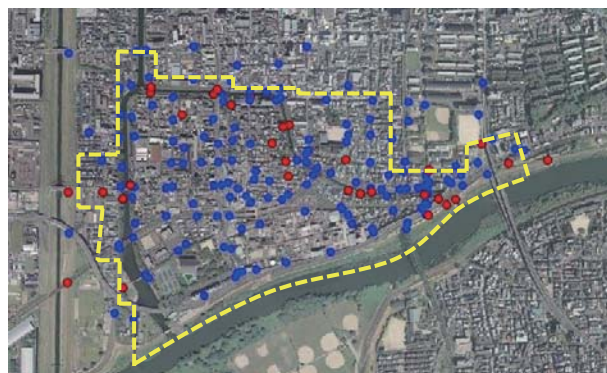
防除計画では生息地域の拡大を阻止するため、生息地域周辺のアルゼンチンアリが確認されていない地域にも予防的に薬剤散布を行ってきましたが、現



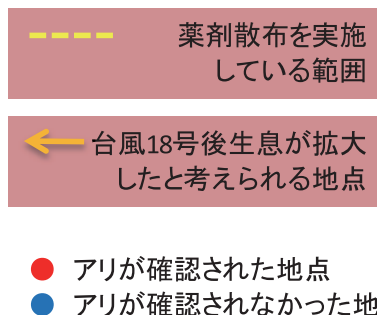
a. アルゼンチンアリ分布(2012年12月-2014年3月)



b. トビイロシワアリ分布(2012年12月-2014年3月)



c. アミメアリ分布(2012年12月-2014年3月)



航空写真については京都府統合型GISを用いた

図1. 京都市伏見区のアリと在来アリ2種の分布

在生息地域の拡大はほぼ阻止することができているものと考えられます。一方で、薬剤の効果が明確に出ておらず、依然として高密度にアルゼンチンアリが生息している地域も存在しています。そこで今年度は防除計画を少し変更し、在来のアリへの影響などを考慮して、アルゼンチンアリが生息していない区域の一部で予防的散布を中止するとともに、高密度生息地域では、薬剤不足の可能性も考慮し、アルゼンチンアリの活動が活発な5月～11月の間は従来の2倍量の薬剤散布を行うこととしました。アリ類のモニタリング調査については従来どおり行い、もし生息地域の拡大などが確認されればすぐに対処できるようにしています。

今後も注意深くアリの生息状況を調査しつつ、住民の皆様と一緒に、根絶に向けた防除に努めていきます。

注1) 南米原産のアルゼンチンアリは、日本では1993年に広島県で初確認後、現在12都府県で分布が確認され、京都府のように内陸部でも定着地がみつかっています。また、アルゼンチンアリは、浸水などの環境の乱れに乗じて、在来アリより早く分布域

を拡大するともいわれています。こうしたことから、アルゼンチンアリが既に侵入している地域では、分布拡大と被害の防止等を図るとともに、未侵入地域において新たに侵入が確認された場合は、定着させないよう早期に根絶する必要があります。アルゼンチンアリの詳しい情報については、以下のURLも参照してください。

アルゼンチンアリ防除の手引き（環境省）：http://www.env.go.jp/nature/intro/4control/files/manual_argentine.pdf

注2) 保健環境研究所だより106号：
<http://www.pref.kyoto.jp/hokanken/documents/tayori106.pdf>

（環境衛生課 横田 景）

今回掲載したデータは、協議会の一斉モニタリング調査の結果から示しました。協議会では、住民の皆様のご協力を得て防除作業を実施しています。防除作業ボランティアなどの受付は京都市伏見保健センターで随時行っておりますので、お問い合わせください（伏見区役所保健部衛生課 電話：075-611-1164 ファックス：075-611-1166）。

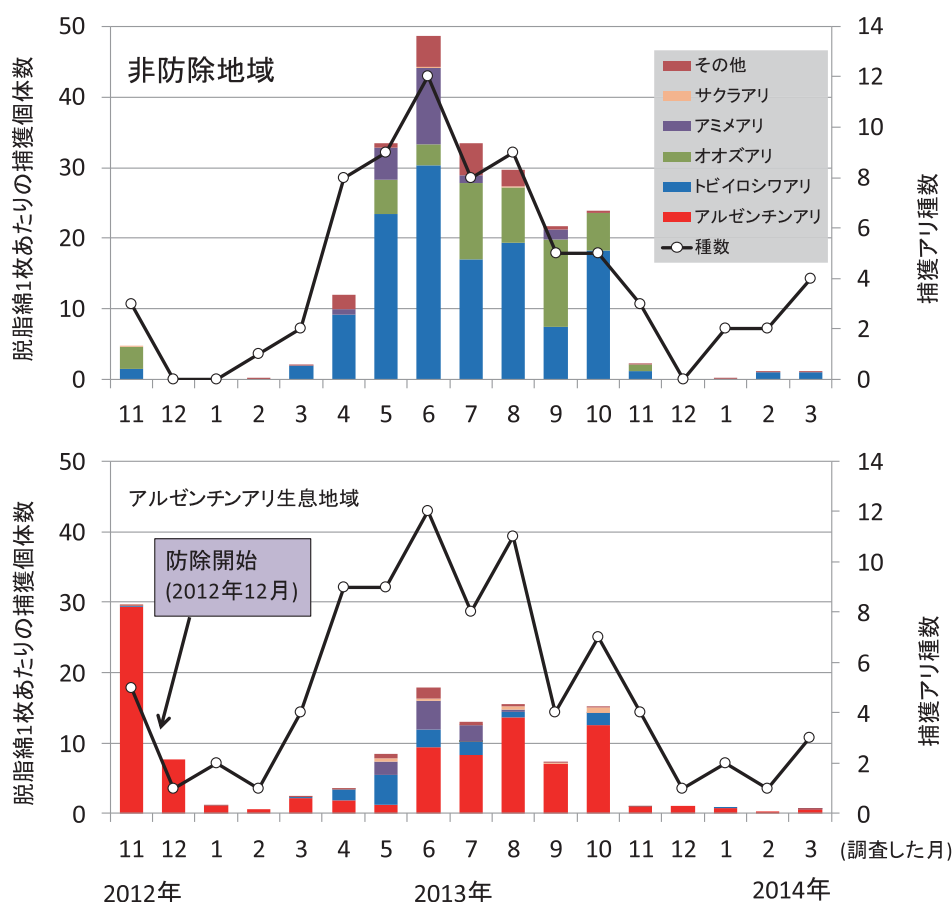


図2. 捕獲アリ個体数と種数の推移

